

コミュニケーション手段の変化/ ネットコミュニケーションの特徴

22j1-110

教科書 P34-P37

コミュニケーション手段の変化/ネットコミュニケーションの特徴

- コミュニケーション手段の変化/ネットコミュニケーションの特徴
- S: コミュニケーション手段の特徴がよく理解でき、特性に配慮して活用しようと思った
- A: コミュニケーション手段の特徴がよく理解できた
- B: コミュニケーション手段の特徴が理解できた
- C: コミュニケーション手段の特徴が理解できなかった

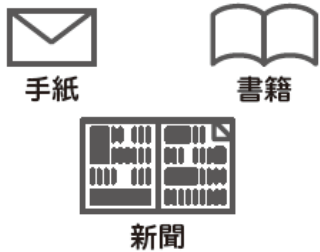
コミュニケーション手段の変化

時間と空間を超えたコミュニケーション

- 情報技術の発展 → 多様なコミュニケーション

メディア

コミュニケーション



共通体験の創出

- ラジオとテレビの普及
- 遠方での出来事を共有
- 同じ情報に接する
→ 体験や記憶を共有する範囲が増える

- はやり 世代 など

いつでもどこでも誰とでも

- インターネットの普及:1990年代半ば～
- 個人による情報発信
 - Webサイト・ブログ等
- コミュニティ:共通の趣味の集まり

- モバイルインターネット:1999年(i-mode)

つながりのメディア

- ソーシャルメディア: 共同で情報を作り上げ発信
- SNS: インターネット上の交流を促進
 - 1:1やグループのコミュニケーション
- さまざまなメディアが利用できる
 - 相手・目的・状況によって適切なメディアの選択が必要

ネットコミュニケーションの特徴

記録性

- インターネット上の情報の送受信 → 常に記録が残る
- 一度公開された情報 → 完全に消去することは難しい
- 冷静に責任を持って発信することが重要

アクセス記録の活用

- レコメンド機能
 - キーワード検索に関連した商品の提案
 - アクセス記録を活用したマーケティング

匿名性

- 匿名性：名前や所属などの個人の情報を非開示
- 実名
 - ○責任を持って発信/×犯罪や誹謗中傷
- 匿名
 - ○自由に発言/×不確かな情報の発信
- サイバーカスケード
 - 似た意見を持つ人達の中
 - 短時間で極端で排他的な傾向

コミュニケーションの形態について考える

メディアの視点から

コミュニケーションの形態

- 人と場所の関係
- 人と時間の関係
- 人数の組み合わせ
- コミュニケーションの方向性

コミュニケーションの形態

- 場所: 共有する/しない
 - 時間: 共有する/しない
 - 人数: 1対1/1対多/多対多
 - 方向: 1方向/双方向
-
- $2 \times 2 \times 3 \times 2 = 24$ 通りある？

コミュニケーションの形態

- 双方向のコミュニケーションは時間の共有が必須
- 多対多の一方向は時間を共有できない

- $24-6-2=16$ 通りある？

コミュニケーション形態の分類

	場所	時間	人数	方向	具体例
0	共有無し	共有無し	1対1	一方向	
1	共有無し	共有無し	1対多	一方向	
2	共有無し	共有無し	多対多	一方向	
3	共有無し	共有あり	1対1	双方向	
4	共有無し	共有あり	1対多	双方向	
5	共有無し	共有あり	多対多	双方向	
6	共有無し	共有あり	1対1	一方向	
7	共有無し	共有あり	1対多	一方向	
8	共有あり	共有あり	1対1	双方向	
9	共有あり	共有あり	1対多	双方向	
A	共有あり	共有あり	多対多	双方向	
B	共有あり	共有あり	1対1	一方向	
C	共有あり	共有あり	1対多	一方向	
D	共有あり	共有無し	1対1	一方向	
E	共有あり	共有無し	1対多	一方向	
F	共有あり	共有無し	多対多	一方向	

コミュニケーション形態の分類

- 自分のドライブ 22j1-110ws.xlsxを開く
- 自分で考えて埋めてみよう